

目次

スポーツウエルネス学研究科

＜スポーツウエルネス学専攻（D）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人立教学院

(2) 大 学 名
立教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒352-8558
埼玉県新座市北野一丁目2番26号
(〒171-8501 東京都豊島区西池袋3丁目34番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクダ アキヒロ) 福田 裕昭 (令和4年8月1日)		
学 長	(ニシハラ レンタ) 西原 廉太 (令和3年4月1日)		
研究科長	(スマザワ ヒデオ) 沼澤 秀雄 (令和5年4月1日)		
専攻主任	(マツオ テツヤ) 松尾 哲矢 (令和5年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5)－① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
スポーツウエルネス学研究科 スポーツウエルネス学専攻 (D) 博士（スポーツウエルネス学）	体育関係	3 年	5 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	15 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

(5)－② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 － (ー) [ー]	人 5 (ー) [ー]	人 5 (ー) [ー]	人 5 (ー) [ー]	人 5 (ー) [ー]		－	0.66倍	－ 倍	
志願者数	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	6 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]					
受験者数	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	6 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]					
合格者数	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	5 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]					
B 入学者数	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	2 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]	5 (ー) [ー]	－ (ー) [ー]					
入学定員超過率 B／A	－		－		－		－		0.40		1.00					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
 - ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（()）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「－」を選択）
 - ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・ 「(5)－② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次									2 [－] (－)	－ [－] (－)	5 [－] (－)	－ [－] (－)	本研究科はコミュニティ福祉学研究科を改組して令和５年度に開設したところであるが、同研究科からの移籍者がいるため、令和５年度に２年次及び３年次も同時に開設した。従って、令和５年度の「２年次」及び「３年次」欄並びに令和６年度の「３年次」欄には、コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻からの移籍者数を記入している。
２年次									1 [－] (－)	－ [－] (－)	2 [－] (－)	－ [－] (－)	
３年次									2 [－] (－)	－ [－] (－)	3 [－] (－)	－ [－] (－)	
４年次													
計									5 [－] (－)		10 [－] (－)		

- (注) ・ 報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) 一④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	7 人	2 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	2 人	0 人	・退学した2名はいずれもコミュニティ福祉学研究科からの移籍者である。 ・このうち、退学者Aは2016年度に入学したが、本務先業務多忙のため、退学した。 ・退学者Bは2017年度に入学したが、論文博士の取得を希望のため、退学した。 ・「入学した年度」欄の追加ができないため、便宜的に「令和5年度」欄に記載した。
令和6年度	10 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		2 人		2 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

令和元年度の退学者数(a)	=	-	=		%
令和元年度の在学者数(b)	=	-	=	-	%

【令和2年度】

令和2年度の退学者数(a)	=	-	=	-	%
令和2年度の在学者数(b)	=	-			

【令和3年度】

令和3年度の退学者数(a)	=	-	=	-	%
令和3年度の在学者数(b)	=	-	=	-	%

【令和4年度】

令和4年度の退学者数(a)	=	-	=		%
令和4年度の在学者数(b)	=	-	=		%

【令和5年度】

令和5年度の退学者数(a)	=	$\frac{2}{7}$	=	28.57	%
---------------	---	---------------	---	-------	---

【令和6年度】

令和6年度の退学者数(a)	=	0	=	0	%
令和6年度の在学者数(b)		10			

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜スポーツウエルネス学研究科 スポーツウエルネス学専攻（D）＞

（１）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導	(研究指導)	－	－			10	1				
	小計(－科目)	－	－			10	1				
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)	1・2・3後		2			1				
	スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究8(健康心理学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)	1・2・3前		2			1				
	スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究17 (アダプテッド・スポーツ)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究19 (環境教育)	1・2・3後		2							1
小計(19科目)		－	0	38	0	10	2	0	0	0	7
合計(19科目)		－	0	38	0	10	2	0	0	0	7
卒業要件及び履修方法											
博士課程後期課程に3年以上在学し、選択科目を6単位以上を修得し、かつ学位論文作成等に対する指導(研究指導)を受け、中間報告等により途中経過の確認の後、博士論文を提出しその審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。											

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導	(研究指導)	－	－			10	2				
	小計(－科目)	－	－			10	2				
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)	1・2・3後		2			1				
	スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究8(健康心理学)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)	1・2・3前		2			1				
	スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究17 (アダプテッド・スポーツ)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究19 (環境教育)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究21 (スポーツ文化と教育)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究22 (アスレティックトレーニング学、 コンディショニング)	1・2・3後		2			1				
	スポーツウエルネス研究23 (抗加齢医学、時間医療科学)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究24(ウエルネス医学)	1・2・3後		2							1
小計(23科目)		－	0	46	0	10	3	0	0	0	10
合計(23科目)		－	0	46	0	10	3	0	0	0	10
卒業要件及び履修方法											
博士課程後期課程に3年以上在学し、選択必修科目としてスポーツ分野科目(スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)、スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)、スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)、スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)、スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)、スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)、スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)、スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)、スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)、スポーツウエルネス研究22(アスレティックトレーニング学、コンディショニング))から2単位、ウエルネス分野科目(スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)、スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)、スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)、スポーツ ウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)、スポーツウエルネス研究 8(健康心理学)、スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)、スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)、スポーツウエルネス研究 17(アダプテッド・スポーツ)、スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)、スポーツウエルネス研究19(環境教育)、スポーツウエルネス研究21(スポーツ文化と教育)、スポーツウエルネス研究23(抗加齢医学、時間医療科学)、スポーツウエルネス研究24(ウエルネス医学))から2単位の計4単位、選択科目としてスポーツ分野科目、ウエルネス分野科目、他研究科開講科目等から2単位の合計6単位以上を修得し、かつ学位論文作成等に対する指導(研究指導)を受け、中間報告等により途中経過の確認の後、博士論文を提出しその審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。											

【令和５年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任 ・ 兼任
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
研究 指導	(研究指導)	－	－			10	2				
	小計(－科目)	－	－			10	2				
選 択 科 目	スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)	1・2・3後		2			1				
	スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究8(健康心理学)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)	1・2・3前		2			1				
	スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)	1・2・3前		2		1					
	スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究17 (アダプテッド・スポーツ) (未開講)	1・2・3前		2							1
	スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究19 (環境教育) (未開講)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究21 (スポーツ文化と教育)	1・2・3後		2		1					
	スポーツウエルネス研究22 (アスレティックトレーニング 学、コンディショニング)	1・2・3前		2			1				
	スポーツウエルネス研究23 (抗加齢医学、時間医療科学)	1・2・3後		2							1
	スポーツウエルネス研究24(ウエルネス医学)	1・2・3後		2							1
	小計(23科目)	－	0	46	0	10	3	0	0	0	10
合計(23科目)		－	0	46	0	10	3	0	0	0	10
卒業要件及び履修方法											
博士課程後期課程に3年以上在学し、選択必修科目としてスポーツ分野科目(スポーツウエルネス研究3(トレーニング科学、コーチング)、スポーツウエルネス研究6(スポーツ栄養学)、スポーツウエルネス研究7(スポーツ医学)、スポーツウエルネス研究9(バイオメカニクス)、スポーツウエルネス研究10(スポーツ・運動心理学)、スポーツウエルネス研究11(スポーツ方法学)、スポーツウエルネス研究13(スポーツマネジメント)、スポーツウエルネス研究14(トレーナー科学)、スポーツウエルネス研究15(データサイエンス)、スポーツウエルネス研究22(アスレティックトレーニング学、コンディショニング))から2単位、ウエルネス分野科目(スポーツウエルネス研究1(スポーツ社会学)、スポーツウエルネス研究2(野外教育、環境教育)、スポーツウエルネス研究4(環境生理学、神経科学)、スポーツウエルネス研究5(ウエルネスジェンダー学)、スポーツウエルネス研究8(健康心理学)、スポーツウエルネス研究12(分子細胞生物学)、スポーツウエルネス研究16(ウエルネス科学)、スポーツウエルネス研究17(アダプテッド・スポーツ)、スポーツウエルネス研究18(スポーツメディア)、スポーツウエルネス研究19(環境教育)、スポーツウエルネス研究21(スポーツ文化と教育)、スポーツウエルネス研究23(抗加齢医学、時間医療科学)、スポーツウエルネス研究24(ウエルネス医学))から2単位の計4単位、選択科目としてスポーツ分野科目、ウエルネス分野科目、他研究科開講科目等から2単位の合計6単位以上を修得し、かつ学位論文作成等に対する指導(研究指導)を受け、中間報告等により途中経過の確認の後、博士論文を提出しその審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ー②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

※令和5年度の変更内容は全て令和6年度においても継続

【令和6年度】

○令和5年度から継続

- ・専任教員の採用により、「研究指導」の教員配置を「教授10」「准教授1」から、「教授10」「准教授2」に変更（R5AC教員審査済）。
- ・開講学期の見直しにより、「スポーツウエルネス研究4（環境生理学、神経科学）」の開講期間を「後期」から「前期」に変更。
- ・開講学期の見直しにより、「スポーツウエルネス研究6（スポーツ栄養学）」の開講期間を「後期」から「前期」に変更。
- ・専任教員の就任辞退および開講学期の見直しにより、「スポーツウエルネス研究8（健康心理学）」の教員配置を「教授1」から「兼任・兼担1」に、開講学期を「後期」から「前期」に変更。
- ・開講学期の見直しにより、「スポーツウエルネス研究11（スポーツ方法学）」の開講期間を「前期」から「後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「スポーツウエルネス研究21（スポーツ文化と教育）」を新規科目として追加（R5AC教員審査済）。
- ・教育課程の充実を図るために、「スポーツウエルネス研究22（アスレティックトレーニング学、コンディショニング）」を新規科目として追加（R5AC教員審査済）。
- ・教育課程の充実を図るために、「スポーツウエルネス研究23（抗加齢医学、時間医療科学）」を新規科目として追加。
- ・教育課程の充実を図るために、「スポーツウエルネス研究24（ウエルネス医学）」を新規科目として追加。

○令和6年度からの変更内容

- ・開講学期の見直しにより、「スポーツウエルネス研究1（スポーツ社会学）」の開講期間を「前期」から「後期」に変更。
- ・開講学期の見直しにより、令和5年度に新設した「スポーツウエルネス研究22（アスレティックトレーニング学、コンディショニング）」の開講期間を「前期」から「後期」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
0 科目	19 科目	0 科目	19 科目	0 科目 [0]	23 科目 [4]	0 科目 [0]	23 科目 [4]	（記入例：指定規則の場合） 【旧カリキュラム】 設置時の計画：必修○科目、選択○科目、自由○科目、 計（A）○科目 変更状況：必修○科目、選択○科目、自由○科目、 計○科目

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	運動場用地のうち、富士見総合グラウンドは校舎敷地とは別地（東武東上線志木駅からスクールバスで約20分）最新の数値を記入した。（5） 最新の数値を記入した。（6）			
	校 舎 敷 地	118,514㎡ 117,493㎡ 116,820㎡	0㎡	0㎡	118,514㎡ 117,493㎡ 116,820㎡				
	運動場用地	125,853㎡	0㎡	0㎡	125,853㎡				
	小 計	244,367㎡ 243,346㎡ 242,673㎡	0㎡	0㎡	244,367㎡ 243,346㎡ 242,673㎡				
	そ の 他	16,210㎡ 16,234㎡	0㎡	0㎡	16,210㎡ 16,234㎡				
	合 計	260,577㎡ 259,580㎡ 258,907㎡	0㎡	0㎡	260,577㎡ 259,580㎡ 258,907㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	完成年度については、新棟建設が未着工のため仮の数値最新の数値を記入した。（5） 最新の数値を記入した。（6）			
		185,171㎡ 182,776㎡ 183,096㎡ (176,476㎡ 176,796㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	185,171㎡ 182,776㎡ 183,096㎡ (176,476㎡ 176,796㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体最新の数値を記入した。（5） 最新の数値を記入した。（6）		
		142 138 143室	141 157室	70 69室	13 9 21室 (補助職員 一人)	4 12室 (補助職員 一人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		スポーツウエルネス学研究科スポーツウエルネス学専攻(D)			22 室				
(5)図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能のため、大学全体の数。 電子ジャーナル及び学術雑誌については、その大半が電子契約のみ又は冊子契約（所蔵）のみとなっており、必ずしも電子ジャーナルが学術雑誌の内数とならないため、それぞれ計上。 最新の数値を記入した。（5） 最新の数値を記入した。（6）	
		2,095,973〔801,170〕 2,140,355〔813,851〕 2,027,717〔785,765〕 (2,049,288〔789,825〕) (2,025,318〔784,054〕) (2,102,761〔806,713〕)	22,215〔7,258〕 22,216〔7,251〕 21,051〔7,060〕 (22,215〔7,258〕) (22,216〔7,251〕) (21,051〔7,060〕)	96,628〔96,467〕 94,083〔93,964〕 66,845〔66,734〕 (96,628〔96,467〕) (94,083〔93,964〕) (66,845〔66,734〕)	64,340 64,706 64,126 (63,922) (63,661) (65,854)	763 712 968 (763) (882) (968)	0 (0)		
		2,095,973〔801,170〕 2,140,355〔813,851〕 2,027,717〔785,765〕 (2,049,288〔789,825〕) (2,025,318〔784,054〕) (2,102,761〔806,713〕)	22,215〔7,258〕 22,216〔7,251〕 21,051〔7,060〕 (22,215〔7,258〕) (22,216〔7,251〕) (21,051〔7,060〕)	96,628〔96,467〕 94,083〔93,964〕 66,845〔66,734〕 (96,628〔96,467〕) (94,083〔93,964〕) (66,845〔66,734〕)	63,922 64,706 64,126 (63,922) (63,661) (65,854)	763 712 968 (763) (712) (968)	0 (0)		
		2,095,973〔801,170〕 2,140,355〔813,851〕 2,027,717〔785,765〕 (2,049,288〔789,825〕) (2,025,318〔784,054〕) (2,102,761〔806,713〕)	22,215〔7,258〕 22,216〔7,251〕 21,051〔7,060〕 (22,215〔7,258〕) (22,216〔7,251〕) (21,051〔7,060〕)	96,628〔96,467〕 94,083〔93,964〕 66,845〔66,734〕 (96,628〔96,467〕) (94,083〔93,964〕) (66,845〔66,734〕)	63,922 64,706 64,126 (63,922) (63,661) (65,854)	763 712 968 (763) (712) (968)	0 (0)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体最新の数値を記入した。（5）	
		21,710.91 21,554.99㎡		2,029		2,777,306 2,928,382			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		13,450.03㎡		ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む。）を含む。最新の予算を反映した。（5） 最新の予算を反映した。（6）
		教員1人当り研究費等	973千円 1,033千円	1,748千円 973千円 1,033千円	図書購入費	640,672千円 661,319千円	677,814千円 688,807千円 661,319千円	717,217千円 688,807千円 661,319千円	
		共 同 研 究 費 等	27,000千円 15,186千円	17,400千円 27,000千円 15,186千円	設備購入費	158,378千円 202,991千円	409,941千円 369,929千円 202,991千円	772,915千円 369,929千円 202,991千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		936.5千円	711.5千円	711.5千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等					

- （注）・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	立 教 大 学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考			
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度					
文学部	4	918	0	3672	-	1.05	0.99	令和4	昭和24	-	令和4年度 入学定員増(900⇒918)			
キリスト教学科	4	50	0	200	学士 (文学)	1.04	0.97	令和4	昭和24	東京都豊島区西 池袋三丁目34番1 号	令和4年度 入学定員増(49⇒50)			
史学科	4	215	0	860	学士 (文学)	1.04	0.99	令和4	昭和24		同上	令和4年度 入学定員増(214⇒215)		
教育学科	4	101	0	404	学士 (文学)	1.14	1.09	令和4	昭和37		同上	令和4年度 入学定員増(100⇒101)		
文学科	4	552	0	2208	学士 (文学) 学士 (学術)	1.03	0.98	令和4	平成18		同上	令和4年度 入学定員増(537⇒552)		
経済学部	4	684	0	2736	-	1.03	0.98	令和4	昭和24		-	令和4年度 入学定員増(680⇒684)		
経済学科	4	332	0	1328	学士 (経済学)	1.06	1.00	令和4	昭和24	同上	令和4年度 入学定員増(330⇒332)			
会計ファイナンス学科	4	176	0	704	学士 (経済学)	0.97	—	令和4	平成14	同上	令和4年度 入学定員増(175⇒176)			
経済政策学科	4	176	0	704	学士 (経済学)	1.05	1.00	令和4	平成18	同上	令和4年度 入学定員増(175⇒176)			
理学部	4	292	0	1168	-	1.02	0.97	-	昭和24	-				
数学科	4	66	0	264	学士 (理学)	1.05	0.99	-	昭和24	同上				
物理学科	4	77	0	308	学士 (理学)	1.03	0.96	-	昭和24	同上				
化学科	4	77	0	308	学士 (理学)	0.98	—	-	昭和24	同上				
生命理学科	4	72	0	288	学士 (理学)	1.01	0.98	-	平成14	同上				
社会学部	4	519	0	2076	-	1.06	1.01	令和4	昭和33	-	令和4年度 入学定員増(510⇒519)			
社会学科	4	173	0	692	学士 (社会学)	1.07	1.01	令和4	昭和33	同上	令和4年度 入学定員増(170⇒173)			
現代文化学科	4	173	0	692	学士 (社会学)	1.04	0.98	令和4	平成14	同上	令和4年度 入学定員増(170⇒173)			
経済社会学科	4	173	0	692	学士 (社会学)	1.07	1.02	令和4	平成18	同上	令和4年度 入学定員増(170⇒173)			
法学部	4	585	0	2340	-	1.05	1.00	-	昭和34	-				
法学科	4	360	0	1440	学士 (法学)	0.95	—	-	昭和34	同上				
政治学科	4	110	0	440	学士 (政治学)	1.07	1.01	-	平成8	同上				
国際比較法学科	4	115	0	460	学士 (法学)	1.32	1.25	-	昭和63	同上				
観光学部	4	370	0	1480	-	1.05	0.99	-	平成10	-				
観光学科	4	195	0	780	学士 (観光学)	1.09	1.02	-	平成10	埼玉県新座市北 野一丁目2番26号				
交流文化学科	4	175	0	700	学士 (観光学)	1.00	0.95	-	平成18		同上			
コミュニティ福祉学部	4	350	0	1400	-	1.02	0.98	令和5	平成10	-	令和5年度 入学定員減(418⇒350)			

福祉学科	4	130	0	520	学士 (コミュニティ福祉学)	1.00	—	令和5	平成18	同上	令和5年度 入学定員減(154⇒130)
コミュニティ政策学科	4	220	0	880	学士 (コミュニティ福祉学)	1.03	1.00	令和5	平成18	同上	令和5年度 入学定員増(154⇒220)
スポーツウェルネス学科	4	—	—	—	学士 (スポーツウェルネス学)	—	—	令和5	平成20	同上	令和5年度 学生募集停止
経営学部	4	385	0	1540	—	1.04	1.00	—	平成18	—	
経営学科	4	230	0	920	学士 (経営学)	1.02	0.98	—	平成18	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	
国際経営学科	4	155	0	620	学士 (経営学)	1.08	1.02	—	平成18	同上	
現代心理学部	4	319	0	1276	—	1.05	1.00	—	平成18	—	
心理学科	4	143	0	572	学士 (心理学)	1.04	1.00	—	平成18	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	
映像身体学科	4	176	0	704	学士 (映像身体学)	1.06	1.01	—	平成18	同上	
異文化コミュニケーション学部	4	210	0	840	—	1.12	1.02	令和6	平成20	—	令和6年度 入学定員増(145⇒210)
異文化コミュニケーション学科	4	210	0	840	学士 (異文化コミュニケーション学)	1.12	1.02	令和6	平成20	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号	令和6年度 入学定員増(145⇒210)
スポーツウェルネス学部	4	230	0	920	—	1.00	—	—	令和5	—	
スポーツウェルネス学科	4	230	0	920	学士 (スポーツウェルネス学)	1.00	—	—	令和5	埼玉県新座市北野一丁目2番26号	令和5年度 開設
大学全体	4	4862	0	19448	—	1.04	0.99	—	—	—	

（注）・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。

なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。

・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。

履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。

開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。

算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）Ⅳ.33収容定員の充足状況」をご確認ください。

・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。

なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。

・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

＜スポーツウエルネス学研究科 スポーツウエルネス学専攻（D）＞

（１）－① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 委員長)	ヌマザワ ヒデオ 沼澤 秀雄 (59) ＜令和5年4月＞ 体育学修士
		(研究指導) スポーツウエルネス研究3 (ト レーニング科学、コーチング)
専	教授 (専 攻主 任)	オオイシ カズオ 大石 和男 (65) 高 ＜令和5年4月＞ 医学博士
		(研究指導) スポーツウエルネス研究8 (健 康心理学)
専	教授	イシワタ タカユキ 石渡 貴之 (48) ＜令和5年4月＞ 博士 (理学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究4 (環 境生理学、神経科学)
専	教授	カトウ ハルヤス 加藤 晴康 (59) ＜令和5年4月＞ 博士 (医学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究7 (ス ポーツ医学)
専	教授	カワバタ マサト 川端 雅人 (51) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Human Movement Studies (オーストラリア)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究10 (スポーツ・運動心理学)
専	教授	サノ ノブコ 佐野 信子 (53) ＜令和5年4月＞ 修士 (人文科学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究5 (ウ エルネスジェンダー学)

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 委員長)	ヌマザワ ヒデオ 沼澤 秀雄 (59) ＜令和5年4月＞ 体育学修士
		(研究指導) スポーツウエルネス研究3 (ト レーニング科学、コーチング)
専	教授	イシワタ タカユキ 石渡 貴之 (48) ＜令和5年4月＞ 博士 (理学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究4 (環 境生理学、神経科学)
専	教授	カトウ ハルヤス 加藤 晴康 (59) ＜令和5年4月＞ 博士 (医学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究7 (ス ポーツ医学)
専	教授	カワバタ マサト 川端 雅人 (51) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Human Movement Studies (オーストラリア)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究10 (スポーツ・運動心理学)
専	教授	サノ ノブコ 佐野 信子 (53) ＜令和5年4月＞ 修士 (人文科学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究5 (ウ エルネスジェンダー学)

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (研究科 委員長)	ヌマザワ ヒデオ 沼澤 秀雄 (60) ＜令和5年4月＞ 体育学修士
		(研究指導) スポーツウエルネス研究3 (ト レーニング科学、コーチング)
専	教授	イシワタ タカユキ 石渡 貴之 (49) ＜令和5年4月＞ 博士 (理学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究4 (環 境生理学、神経科学)
専	教授	カトウ ハルヤス 加藤 晴康 (60) ＜令和5年4月＞ 博士 (医学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究7 (ス ポーツ医学)
専	教授	カワバタ マサト 川端 雅人 (52) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Human Movement Studies (オーストラリア)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究10 (スポーツ・運動心理学)
専	教授	サノ ノブコ 佐野 信子 (54) ＜令和5年4月＞ 修士 (人文科学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究5 (ウ エルネスジェンダー学)

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	スギウラ カツミ 杉浦 克己 (65) 高 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 6（ス ポーツ栄養学）
専	教授	タチカワ ヒロユキ 舘川 宏之 (58) ＜令和5年4月＞ 農学博士
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1 2 （分子細胞生物学）
専	教授	マツオ テツヤ 松尾 哲矢 (62) ＜令和5年4月＞ 博士（教育学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1（ス ポーツ社会学）
専	教授	ヤスマツ ミキノブ 安松 幹展 (53) ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 11（ス ポーツ方法学）
専	准教 授	イシイ ヒデユキ 石井 秀幸 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 9（バ イオメカニクス）
専	准教 授	キジ マサヒコ 奇二 正彦 ＜令和5年4月＞ (48) 博士（スポーツウエルネス学）
		スポーツウエルネス研究 2（野 外教育、環境教育）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	スギウラ カツミ 杉浦 克己 (65) 高 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 6（ス ポーツ栄養学）
専	教授	タチカワ ヒロユキ 舘川 宏之 (58) ＜令和5年4月＞ 農学博士
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1 2 （分子細胞生物学）
専	教授 （専 攻主 任）	マツオ テツヤ 松尾 哲矢 (62) ＜令和5年4月＞ 博士（教育学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1（ス ポーツ社会学）
専	教授	ヤスマツ ミキノブ 安松 幹展 (53) ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 11（ス ポーツ方法学）
専	教授	マツダ ケイジ 松田 恵示 (61) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 2 1 （スポーツ文化と教育）
専	准教 授	イシイ ヒデユキ 石井 秀幸 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 9（バ イオメカニクス）
専	准教 授	キジ マサヒコ 奇二 正彦 ＜令和5年4月＞ (48) 博士（スポーツウエルネス学）
		スポーツウエルネス研究 2（野 外教育、環境教育）

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	スギウラ カツミ 杉浦 克己 (66) 高 ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 6（ス ポーツ栄養学）
専	教授	タチカワ ヒロユキ 舘川 宏之 (59) ＜令和5年4月＞ 農学博士
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1 2 （分子細胞生物学）
専	教授 （専 攻主 任）	マツオ テツヤ 松尾 哲矢 (63) ＜令和5年4月＞ 博士（教育学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 1（ス ポーツ社会学）
専	教授	ヤスマツ ミキノブ 安松 幹展 (54) ＜令和5年4月＞ 博士（理学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 11（ス ポーツ方法学）
専	教授	マツダ ケイジ 松田 恵示 (62) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 2 1 （スポーツ文化と教育）
専	准教 授	イシイ ヒデユキ 石井 秀幸 (48) ＜令和5年4月＞ 博士（工学）
		（研究指導） スポーツウエルネス研究 9（バ イオメカニクス）
専	准教 授	キジ マサヒコ 奇二 正彦 ＜令和5年4月＞ (49) 博士（スポーツウエルネス学）
		スポーツウエルネス研究 2（野 外教育、環境教育）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	カトリン ユミコ ライトナー Katrin Jumiko LEITNER (40) ＜令和5年4月＞ Doktor der Philosophie (Japanologie) (オーストリア)
		スポーツウエルネス研究 1 3 (スポーツマネジメント)
兼任	准教授	ゴセキ シンジ 後関 慎司 (54) ＜令和5年4月＞ 修士 (心身健康科学)
		スポーツウエルネス研究 1 4 (トレーナー科学)
兼任	准教授	コバヤシ テツオ 小林 哲郎 (43) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Geography (アメリカ 合衆国)
		スポーツウエルネス研究 1 5 (データサイエンス)
兼任	講師	ニゴリカワ タカシ 濁川 孝志 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		スポーツウエルネス研究 1 6 (ウエルネス科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 任	准教授	ヨシダ ナルト 吉田 成仁 (45) ＜令和5年4月＞ 博士 (スポーツ医学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究 2 2 (アスレティックトレーニング 学、コンディショニング)
兼任	教授	ハットリ アツヒコ 服部 淳彦 (65) ＜令和5年4月＞ 理学博士
		スポーツウエルネス研究 2 3 (抗加齢医学、時間医療科学)
兼任	教授	ドヒ (タシマ) ミチコ 土肥 (田嶋) 美智子 (57) ＜令和5年4月＞ 博士 (医学)
		スポーツウエルネス研究 2 4 (ウエルネス医学)
兼任	准教授	カトリン ユミコ ライトナー Katrin Jumiko LEITNER (40) ＜令和5年4月＞ Doktor der Philosophie (Japanologie) (オーストリア)
		スポーツウエルネス研究 1 3 (スポーツマネジメント)
兼任	准教授	ゴセキ シンジ 後関 慎司 (54) ＜令和5年4月＞ 修士 (心身健康科学)
		スポーツウエルネス研究 1 4 (トレーナー科学)
兼任	准教授	コバヤシ テツオ 小林 哲郎 (43) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Geography (アメリカ 合衆国)
		スポーツウエルネス研究 1 5 (データサイエンス)
兼任	講師	ニゴリカワ タカシ 濁川 孝志 (68) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		スポーツウエルネス研究 1 6 (ウエルネス科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専 任	准教授	ヨシダ ナルト 吉田 成仁 (46) ＜令和5年4月＞ 博士 (スポーツ医学)
		(研究指導) スポーツウエルネス研究 2 2 (アスレティックトレーニング 学、コンディショニング)
兼任	教授	ハットリ アツヒコ 服部 淳彦 (66) ＜令和5年4月＞ 理学博士
		スポーツウエルネス研究 2 3 (抗加齢医学、時間医療科学)
兼任	教授	ドヒ (タシマ) ミチコ 土肥 (田嶋) 美智子 (58) ＜令和5年4月＞ 博士 (医学)
		スポーツウエルネス研究 2 4 (ウエルネス医学)
兼任	准教授	カトリン ユミコ ライトナー Katrin Jumiko LEITNER (41) ＜令和5年4月＞ Doktor der Philosophie (Japanologie) (オーストリア)
		スポーツウエルネス研究 1 3 (スポーツマネジメント)
兼任	准教授	ゴセキ シンジ 後関 慎司 (55) ＜令和5年4月＞ 修士 (心身健康科学)
		スポーツウエルネス研究 1 4 (トレーナー科学)
兼任	准教授	コバヤシ テツオ 小林 哲郎 (44) ＜令和5年4月＞ Doctor of Philosophy in the field of Geography (アメリカ 合衆国)
		スポーツウエルネス研究 1 5 (データサイエンス)
兼任	講師	ニゴリカワ タカシ 濁川 孝志 (69) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		スポーツウエルネス研究 1 6 (ウエルネス科学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タナカ ノブユキ 田中 信行 (63) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		スポーツウエルネス研究１７ (アダプテッド・スポーツ)
兼任	講師	ユウキ ワカコ 結城 和香子 (60) ＜令和5年4月＞ 文学士
		スポーツウエルネス研究１８ (スポーツメディア)
兼任	講師	カクマ ツトム 鹿熊 勤 (62) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		スポーツウエルネス研究１９ (環境教育)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タナカ ノブユキ 田中 信行 (63) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		スポーツウエルネス研究１７ (アダプテッド・スポーツ)
兼任	講師	ユウキ ワカコ 結城 和香子 (60) ＜令和5年4月＞ 文学士
		スポーツウエルネス研究１８ (スポーツメディア)
兼任	講師	カクマ ツトム 鹿熊 勤 (62) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		スポーツウエルネス研究１９ (環境教育)
兼任	講師	エンドウ シンタロウ 遠藤 伸太郎 (36) ＜令和5年4月＞ 博士（コミュニティ福祉学）
		スポーツウエルネス研究８（健康心理学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タナカ ノブユキ 田中 信行 (64) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		スポーツウエルネス研究１７ (アダプテッド・スポーツ)
兼任	講師	ユウキ ワカコ 結城 和香子 (61) ＜令和5年4月＞ 文学士
		スポーツウエルネス研究１８ (スポーツメディア)
兼任	講師	カクマ ツトム 鹿熊 勤 (63) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒
		スポーツウエルネス研究１９ (環境教育)
兼任	講師	エンドウ シンタロウ 遠藤 伸太郎 (37) ＜令和5年4月＞ 博士（コミュニティ福祉学）
		スポーツウエルネス研究８（健康心理学）

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ー②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

※令和5年度の変更内容は全て令和6年度においても継続

【令和6年度】

○令和5年度から継続

- ・大石和男（専任）教授就任辞退により、担当科目は他の専任教員及び兼任講師が担当。また、専攻主任には松尾哲矢（専任）教授が就任。
- ・松田恵示（専任）教授、吉田成仁（専任）准教授を専任教員に追加。令和5年2月AC教員審査済。
- ・服部淳彦（兼任）教授、土肥（田嶋）美智子（兼任）教授を追加。
- ・遠藤伸太郎（兼任）講師を追加。大石和男（専任）教授担当予定の「スポーツウエルネス研究8（健康心理学）」を担当。

○令和6年度からの変更

特になし

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
4	3	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により
算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
10	2	0	0	12	0	10	3	0	0	13	0
(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
5	5	6	1			7	6	5	1		
(5)	(5)	(6)	(1)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	3	0	0	13	0	10	3	0	0	13	0
[0]	[1]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[1]	[0]	[0]	[1]	[0]
研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究 指導 教員 数	うち教 授数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	6	5	1			7	6	5	1		
[2]	[1]	[△1]	[0]			[2]	[1]	[△1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	1	1
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、
及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている
教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、
「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{13}{12} = \boxed{108.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{1}{13} = \boxed{7.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	大石 和男	R4.10	選択	スポーツウエルネス研究8（健康心理学）	②	R4.10 健康上の理由のため就任辞退			
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	1	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3)－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
							該当なし			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	1	科目	計	0	科目	計	1	科目	計	0	科目	

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

(3)－③合計(D)+(F)

(2)－②設置時の計画(A)

=

1

12

=

8.33

%

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0

人

- (注) ・ (3)－①、(3)－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D)＋(F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0人		必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

選択科目については、他の兼任教員で当初の担当科目を対応することとしたので、学生の履修等に影響はない。

研究指導については、進学説明会は当該教員就任辞退後に実施したため、当該教員は教員紹介には含めておらず、指導教授に希望する受験生もいなかったため、受験生に対する周知は特に行っていない。

また、当該教員を指導教授とする在籍中の学生に対しては研究科委員長より丁寧な説明を行った。その上で、本人の専門分野を十分に考慮し、「スポーツ分野」「ウエルネス分野」の双方の分野から指導教授・副指導教員を適切に配置し、より学際的に高度な研究指導を提供できる体制を整えている。

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和4年)	「審査意見への対応を記載した書類（6月）」の審査意見1への対応において、 「『スポーツウエルネス学』は、・・・『スポーツ科学』と、・・・『ウエルネス科学』とを融合させた学問体系であり、スポーツ並びにウエルネスに関わる様々な課題を対象として総合的に研究し、スポーツ推進とウエルネスの向上に寄与することを目的としている」ことが示されたが、「審査意見への対応を記載した書類（6月）」の資料1を見ると、研究分野は「スポーツ分野」と「ウエルネス分野」に二分されており、スポーツとウエルネスの各分野を単独で学ぶようにも見受けられ、双方を融合的に学ぶものであることが必ずしも明確ではない。また、「人材養成像」として「アスリートパフォーマンス」「ウエルネススポーツ」「環境・スポーツ教育」の3つが示されたが、2つの研究分野がどのように関連し、これら3つの「人材養成像」に求められる能力等を涵養（かんよう）するか、示された図からは必ずしも明らかではないことから、本学が掲げる「スポーツウエルネス学」と「スポーツ科学」「ウエルネス科学」との関係、「スポーツウエルネス学」と養成する人材像との関係、及び3つの「人材養成像」それぞれの身に付ける能力等と修了後の想定される進路について、研究科設置前から、社会や学生等に対し分かりやすく示すこと。	【認可】 遵守事項 附帯事項を踏まえ、本研究科への学内進学希望者へ向けた博士課程後期課程説明会（オンライン、令和4年12月3日実施）において、「スポーツウエルネス学の定義」、「スポーツ分野とウエルネス分野の関連性」、「アスリートパフォーマンス、ウエルネススポーツ、環境・スポーツ教育の3つの人材養成像でそれぞれの身に付ける能力等と修了後の想定される進路」について具体的な説明を行った。更に、学外の進学希望者に対しては大学ホームページにおける大学院案内（スポーツウエルネス学研究科）において説明している。また、現在コミュニティ福祉学研究科に所属している大学院生に対しても、対面及びオンラインで同様の説明を行った（令和5年1月20日、30日、31日実施）。なお、これまでにこれらの説明に対する質問や疑問は出ていない。（5） 附帯事項を踏まえ、本研究科への学内外進学希望者へ向けた博士課程後期課程説明会（オンライン、令和5年11月8日実施）において、「スポーツウエルネス学の定義」、「スポーツ分野とウエルネス分野の関連性」、「アスリートパフォーマンス、ウエルネススポーツ、環境・スポーツ教育の3つの人材養成像でそれぞれの身に付ける能力等と修了後の想定される進路」について具体的な説明を行った。更に、大学ホームページにおける大学院案内（スポーツウエルネス学研究科）においても説明している。なお、これまでにこれらの説明に対する質問や疑問は出ていない。（6）	履行済 引き続き、「スポーツウエルネス学」と「スポーツ科学」「ウエルネス科学」との関係、「スポーツウエルネス学」と養成する人材像との関係、及び3つの「人材養成像」それぞれの身に付ける能力等と修了後の想定される進路等について、個別相談やウェブサイト上で丁寧に説明を行う。（5） （6）

認 可 時 (令和4年)	「審査意見への対応を記載した書類（6月）」の審査意見4への対応において、本研究科で修得すべきスポーツウエルネス学における能力を身に付けるための授業科目を、「スポーツ分野」及び「ウエルネス分野」の区分に沿って体系的に編成することが示されたが、スポーツ科学とウエルネス科学の融合を「スポーツウエルネス学」と説明している一方で、両分野を複合的に学び、学際性を高める授業科目が見受けられないことから、博士前期課程及び博士後期課程のそれぞれの養成する人材像や身に付けるべき能力等を踏まえつつ、例えば「スポーツ」と「ウエルネス」の両面の観点から取り組むプロジェクトベースドラニングを中心とした演習科目を設けるなど、「スポーツ分野」での学びと「ウエルネス分野」での学びをつなぐ授業科目を追加すること。	【認可】 遵守事項	「スポーツ分野」と「ウエルネス分野」を複合的に学び、学際性を高めるため、後期課程の研究指導においては、指導教員1名に加えて、「スポーツ分野」を担当する教員から1名及び「ウエルネス分野」を担当する教員から1名の計2名の副指導教員が担当することとする。従って、学生1人に対し、3名で研究指導を行うことになる。これにより、学際的に高度な知見、専門的知識、方法論的知識及び批判的視点を得ることで、質の高い博士論文の完成を図ることとした。また、附帯事項を踏まえて前期課程で開講した、スポーツ科学とウエルネス科学を融合した視点で研究調査を考察する「プロジェクト研究」については、後期課程の学生の履修も可能とする（ただし、修了要件単位数には算入しない）。（5）（6）	履行済	「スポーツウエルネス学」と「スポーツ科学」「ウエルネス科学」との関係、「スポーツウエルネス学」と養成する人材像との関係、及び3つの「人材養成像」それぞれの身に付ける能力等と修了後の想定される進路に加え、複数で行う研究指導の趣旨についても、個別相談やウェブサイト上で丁寧に説明を行う。また、学生の授業評価アンケート結果等を活用し、授業内容等について改善・向上を図る。（5）（6）
認 可 時 (令和4年)	「審査意見への対応を記載した書類（6月）」の審査意見4への対応において、本研究科で修得すべきスポーツウエルネス学における能力を身に付けるための授業科目を、「スポーツ分野」及び「ウエルネス分野」の区分に沿って体系的に編成することが示されたが、各分野で修得すべき単位数について特段の定めがなく、履修方法によっては修得する単位がいずれかの分野に偏ることも想定されることから、スポーツ科学とウエルネス科学の融合を「スポーツウエルネス学」としていることに鑑み、本研究科の学生が修得する単位が、いずれかの分野に偏ることがないように、修了要件として分野ごとに修得する科目数や単位数について一定の上限を定める又は指定するなど、適切な履修条件を定めること。	【認可】 遵守事項	附帯事項を踏まえ、修了要件を変更した。選択必修科目（コースワーク）として6単位以上の修得を求めていたが、修得する単位が「スポーツ分野」と「ウエルネス分野」のいずれかの分野に偏ることがないこと、スポーツ並びにウエルネスに関わる様々な課題を対象として総合的に研究する能力を身に付けることを補完するため、修了要件単位数である6単位のうち、「スポーツ分野」及び「ウエルネス分野」の2分野からそれぞれ2単位以上を修得することを修了要件とした。（5）（6）	履行済	学生に、「スポーツウエルネス学」は「スポーツ科学」と「ウエルネス科学」の融合であることを周知徹底するとともに、研究計画に沿った適切な履修となるよう、丁寧に履修指導を行う。（5）（6）

認可時 (令和4年)	長期的かつ安定的な学生の確保に資するため、本研究科に対する社会的なニーズを客観的な根拠に基づき分析するなどして、戦略的な学生募集活動に取り組むことが望ましい。	【認可】 助言事項	昨年度までの入学実績を踏まえ、日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会の広告・協賛欄へ本研究科の概要を掲載する他、鍼灸専門学校教員やトレーナー関係者に入試要項及びパンフレットの送付を行うとともに、ウェブサイトを紹介するなど、広報活動を行った。また、基礎となる学部であるスポーツウエルネス学部を同時設置することもあり、2023年3月に公開講演会を2週にわたり企画した。1週目は、スポーツを題材として映画を製作されている周防正行監督（本学交友）を招き、「周防正行監督はなぜ「シコふんじゃった。」と「Shall we ダンス?」を創ったのか」の題目で、映画のなかでスポーツをどのように伝えたか、そして「スポーツウエルネス」の魅力や期待することについて、広く社会に発信した。2週目は、森保一氏（SAMURAI BLUE（日本代表）監督）、小谷実可子氏（本学兼任講師）、上野裕一郎氏（本学体育会陸上競技部男子駅伝監督）を招き、「世界を知る指導者が語る、スポーツウエルネス分野に期待すること」と題した講演会を開催し、「スポーツウエルネス」の魅力を広く社会に発信した。（5） 昨年度までの入学実績を踏まえ、日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会の広告・協賛欄へ本研究科の概要を掲載する他、鍼灸専門学校教員やトレーナー関係者に入試要項及びパンフレットの送付を行うとともに、ウェブサイトを紹介するなど、広報活動を行った。また、日本最大のスポーツ・健康まちづくり総合点であるSPORTECH2023にブースを出展し、更に会場にて加藤晴康教授による「立教大学スポーツウエルネス学部／研究科における研究の取り組みーホルモン測定で健康を科学するー」の講演を行い、新設された生体分子解析センターの内容や同センターを通じての様々な方々とのコラボレーションによる研究への取り組みについての魅力を広く社会に発信した。（6）	今年度の入学者の属性を分析し、引き続き、充足率1.0になることを目指して、各種資料の送付、ウェブサイトの更新等の広報活動のほか、進学説明会の開催等を積極的に行いながら、学生募集活動を行う。（5）（6）
設置計画履行状況 調査結果 (令和5年度)	該当なし			

（注）・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）（6）」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<スポーツウエルネス学研究科 スポーツウエルネス学専攻（D）>

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	○施設・設備の充実 体育館２階の学生ラウンジを一部改修し、「立教大学メディカル&コンディショニング・センター」として位置付けた。 これにより、本研究科に所属している日本国内で高水準のメディカルスタッフ（医師、アスレチックトレーナー等の資格保持者）が、体育会所属学生（希望者）に対してメディカル及びコンディショニングのサポートを行うことができる。また、高いレベルのメディカルサポートに興味がある本研究科、スポーツウエルネス学部及び体育会所属の学生に、その詳細を伝えることで、本学における体育会のメディカル・コンディショニングサポートを底上げしていくことが期待できる。

（注）・ １～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 「立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程」に基づき、令和5年4月1日付でスポーツウエルネス学研究科FD委員会を設置するとともに、スポーツウエルネス学研究科FD委員会規則を制定した。 なお、同規則には、「目的」（第１条）、「構成」（第２条）、「委員会」（第３条）、「幹事委員および委員長」（第４条）、「委員会の審議」（第５条）、「議事録の保管」（第６条）等を規定している。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和5年度は下記の日程にて、春学期、秋学期合わせて5回実施した。 第1回：7月5日、第2回：10月4日、第3回：11月29日、第4回：1月10日、第5回：3月13日 c 委員会の審議事項等 研究科委員長からの指示、教員からの発議、提言のあった事項のほか、FD活動全般について審議し、研究科委員会に提言を行う。（スポーツウエルネス学研究科FD委員会規則第５条） ② 実施状況 a 実施内容 - 研究科の研究教育活動についての懇談会の開催 - 外部講師を招いての研修会の開催 - 研究科内各教員の教育・研究内容の共有 - 新年度一年間の総括として、過去を振り返り、現状を踏まえ、未来に繋げる研修会の実施 「自己点検・評価報告書」に関する検討 b 実施方法 対面その他、メーリングリストやZoomを用いて行う。	
--	--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 7月5日：研究科の研究教育活動についての懇談会の開催（参加教員21名）
 - 1) スポーツウエルネス研究科の理念を実現するための教育・研究・社会貢献等における具体的な短期・長期目標について
 - 2) 本研究科教員の取得学位と学生指導水準について
 - 3) 教育・研究・社会貢献について、毎年教員がもたらした成果に対する評価基準について
 - 4) 研究科や委員会等の会議で用いる言語について
- ・ 10月4日：外部講師を招いての研修会の開催（参加教員：18名）
「スポーツ・体育場面におけるジェンダー・バイアスを検討する」
※講師には、中京大学スポーツ科学部スポーツ教育学科教授（日本体育・スポーツ・健康学会会長、日本スポーツとジェンダー学会会長）の來田京子氏をオンラインで招いた。
- ・ 11月29日、1月10日：研究科内各教員の教育・研究内容の共有（参加教員：22名）
新・旧含め各教員の教育および研究内容について共有し、教員相互理解に繋げた。
- ・ 3月13日：過去を振り返り、現状を踏まえ、未来に繋げる研修会の実施（参加教員：23名）
 - 1) 研究科の将来像について
 - 2) 専任人事について
 - 3) 入試関連について
 - 4) 研究科運営関連について
 - 5) 国際交流：海外に柱となるような拠点を作ることに對する方向性について
 - 6) 博士後期課程の予備審査に進むためのポイントについて
 - 7) 学生のパーソナル・ポートフォリオについて
 - 8) 図書予算の使い方について
- ・ その他：
 - 「自己点検・評価報告書」に関する検討（9月～11月の研究科委員会において複数回に渡り検討）
 - 「求める教員像および教員組織の編成方針」の確認（10月～11月の研究科委員会において複数回に渡り確認）
 - 「3方針、カリキュラムマップ」の点検（11月の研究科委員会において複数回に渡り点検）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研究科発足新年度ということで新規に着任した教員が多いことから、教員相互の研究・教育を中心に相互理解の時間を多く設定した。その結果、全教員がそれぞれの専門性等を理解することが可能となり、その後の授業での協力体制や共同研究などの可能性を図ることに繋がった。また、新任助教や特任教員の意見をヒアリングすることにより、研究科委員会では、拾い上げることが難しい声を聴くことが可能となり、多様な意見の聴取をすることができ、今後の授業改善に役立った。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

少人数科目のため実施無し

b 教員や学生への公開状況、方法等

学生・教員間で率直な意見交換を常に実施。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、スポーツパフォーマンスの向上と高度なスポーツ文化の創造に寄与する「スポーツ科学」と幸福で充実した人生を送るために心身の健康の維持・発展をめざす「ウエルネス科学」の融合を「スポーツウエルネス学」として捉え、アスリートを含めたすべての人のウエルネス向上とウエルネス社会の構築をめざして、令和5年4月に開設したところである。

立教大学自己点検・評価規程に基づき、令和5年4月1日付で、スポーツウエルネス学研究科自己点検・評価委員会を設置した。令和5年度には、「教育課程・学修成果」及び「学生の受け入れ」について自己点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を作成した。以下のとおり、設置の趣旨・目的の達成に向けて順調に教育研究活動を行うことができていると評価できる。

【入学者確保】

入学者確保については、令和5年度は入学定員5名のところ6名の志願者が集まり、そのうち5名が入学した。

【カリキュラム】

令和5年度は、「健康心理学」を専門とする専任教員1名が健康上の理由により辞退したため、代替の兼任講師を補充し、予定の授業科目を問題無くカバーしている。その他の就任予定の専任教員は全て予定通り着任し、開講予定授業科目を全て開講した。また、令和7年度就任として新たに1名の専任教員採用を計画している。

【研究活動】

本研究科は博士論文の作成にあたり、研究活動の構想発表会、中間審査会、予備審査会、公聴会を設定している。令和6年1月23日には構想発表会、令和6年4月30日には中間審査会を開催し大学院生による発表が行われ、学術色の強いテーマが発表された。既に投稿論文等の成果が出始めており、博士論文の完成に向けて期待が持てる状況である。

【産学連携】

スポーツやウエルネスの知識・技術を社会の様々な課題に応用し、人々のウエルネス向上に寄与するため、積極的に産学連携を推進している。令和5年度にはエヌ・ティ・ティ・スポーツコミュニティ株式会社（大宮アルディージャ）と「相互協力・連携に関する包括協定」を締結し、両者で人的・物的・知的資源の活発な交流と活用を図り、地域振興、スポーツ振興、教育・研究振興などの分野で協力し、相互の発展と社会への貢献を目指している。

また、令和5年度は上記協定に加え、本学ウエルネス研究所が株式会社JTBと株式会社ROOMからスポーツ及びウエルネスに関連する受託事業を受けているが、令和6年4月に設置した本研究科附置のスポーツウエルネス研究所がこれを引き継ぐこととした。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和7年4月

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和7年4月）

③ 認証評価を受ける計画

・令和6年度に認証評価機関（公益財団法人大学基準協会）による大学評価（認証評価）を受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無

〔 有 〕

b 公表（予定）時期

〔 調査結果公表後1ヶ月以内 〕

c 公表方法

〔 ウェブサイトへの掲載 〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。